

相談支援センター通信

令和7年9月号

令和7年度の相談支援センターの活動について

当センターは、見え、聞こえ、言葉の発達などについて気になる方を対象とした相談機関で、八戸盲学校・八戸聾学校が協働で運営しています。平成26年に設置され、今年で11年目を迎えました。

個々のニーズに応じた支援について、相談者に寄り添い、情報を提供していきたいと考えております。今後も特別支援教育のセンター的機能を発揮していけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センターの主な業務、①教育相談、②地域との連携、③地域支援について、今年度前期の活動状況についてお知らせします。

①

教育相談

教育相談では、見えや聞こえ、言葉の発達などに関して、本校に来校しての個別の相談支援や、上十三地区や三戸地区の方を対象としたサテライト教室の運営を行っています。また、八戸市保健事業（1歳6ヶ月児健康診査）への協力、地域の幼稚園や保育園、学校等に伺って、指導に関する助言等も行っています。

個別の相談には、当事者やご家族の他、学校の先生方もいらしています。見えや聞こえに関する基本的な知識や、学校生活の中で必要な配慮などについて相談をいただくことが多いです。

聞こえに関する相談では、今年度から集団相談教室「ひよこルーム」を開設しました。1～3歳のお子さまと保護者の方が対象です。お気軽にお問い合わせください。



図1 グループ協議「こどもの幸せの一番星を考える～PATHを使った関係機関の連携」において話し合った内容を、各グループ毎、1枚の用紙にまとめました。

②

地域との連携

当センターは、三八地区特別支援連携協議会事務局主管校として、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の自立や社会参加に向け、地域の一貫した支援体制の充実を図るため、医療、福祉、保健、教育等の機関との連携を推進しています。

現在46機関が参加し、年2回の協議会を開催し、情報提供や研修会等を行っています。

今年度第1回三八地区特別支援連携協議会は6月30日（月）八戸市総合保健センターで開催されました。「こどもの幸せの一番星を考える」というテーマの下、PATHの手法を使ったグループ協議を行いました（図1）。

事例にあげられたこどもの夢を叶えるために、それぞれの立場から自分ができることは何か、それはどの時期なのか、頭を寄せ合い話し合いました（図2）。



図2
グループ協議でそれぞれの立場から意見を述べ合う参加者

協議会後のアンケートの一部をご紹介します。

- ・その子の将来像を明確にして、手立てや支援を考えていく有意義な時間だった。
- ・その子の良さや持っている力を伸ばすために何ができるかを話し合うことで、前向きに考えることができた。
- ・普段関わりがない専門職、機関の方の意見や視点を伺うことができ、勉強になった。
- ・PATHをこどもと一緒にやってみたい。

地域支援では、学校見学や研修会の開催、ゲストティーチャー等の活動を通し、見えにくさや聞こえにくさに関する理解・啓発を行っています。

研修会の開催及び講師

- ・三条中学校校内研修 「聞こえについて」講師
- ・湊小学校校内研修 「聞こえについて」講師
- ・八戸市すすく親子健康課研修
「聾学校教育相談の実際」講師
- ・「きこえに関する学習会」開催
- ・三八・上北地区難聴学級・八戸聾学校情報交換会開催

8月8日に開催された「きこえに関する学習会」は、ブルームヒアリング株式会社盛岡店店長 逢坂和哉氏を講師に、「よりよい補聴環境のために知っておきたい基礎知識」と題して、きこえの仕組みや補聴器の管理の仕方について、丁寧にお話しいただきました。

参加者の感想の一部を紹介します。

- ・難聴の聞こえ方について改めて良く理解できた。
- ・補聴器のメンテナンスの仕方について学べて良かった。
- ・難聴により、社会になじめず、孤独・孤立を感じ、うつ病発症のリスクが高まるなど、様々な影響があることが学びになった。聞こえにくい方の心に寄り添った対応をしていきたい。

ゲストティーチャー

- ・七戸町立七戸小学校「聞こえについての学習会」1年生対象
- ・おいらせ町立木ノ下小学校「見えや聞こえに関する学習会」4年生対象



盲導犬との歩行体験（左上）
点字体験（右上）
白杖歩行体験（右下）



こども学習会

視覚障がいや聴覚障がいについて、体験を通して理解を深める機会として、「こども学習会」を開催しています。今年度は8月6日に開催しました。

昨年度までは、小学生を対象としていましたが、障がい理解に対する関心の高まりを受け、今年度は中・高校生へと対象を広げました。

午前は小学生、午後は中・高生の学習会を行いました。内容は、①本校の概要、②見えにくさの体験、③聞こえにくさの体験、④校内見学です。



シミュレーショングラスをつけての「見えにくさ体験」

イヤーマフをした上に雑音のBGMをかけての「聞こえにくさ体験」



参加者の感想の一部を紹介します。

- ・見えにくさ聞こえにくさがあっても、あきらめないで人と会話をしようがんばっていることが分かった。（小3）
- ・見えにくさや聞こえにくさは同じではなく、一人一人違うということが分かった。（小4）
- ・八戸盲・聾学校は、それぞれの障がいに配慮した仕組みになっていることが分かった。（高2）
- ・もっと手話や指文字、点字を覚えたい。（中1）
- ・教育の仕事に興味があるので、とても勉強になった。（高2）
- ・もしも自分が当事者であつたら・・・と様々な立場に身を置いて、どんな配慮ができるのかを考えたいと思った。よく考えて手を差し伸べられるようになりたい。（高3）
- ・相手を知ろうとすることは、相手に寄り添うための第一歩になると思う。（高3）

愛・Eyeライブラリー

8月30日（土）八戸ショッピングセンターラピアを会場に「愛・Eyeライブラリー in はちのへ」を行いました。このイベントは、地域の方々に八戸盲学校について知っていただくとともに、視覚障がいに関する理解・啓発を目的に毎年開催しています。

関係機関の皆様のご協力のもと、あん摩体験マッサージや盲導犬との歩行体験、最新の視覚補助具の展示・紹介、また本校職員による点字体験、白杖歩行体験、障がい者スポーツ体験を企画し、当日はお子さまから大人の方々までたくさんご来場いただきました。

今後も様々な取り組みをとおして、地域の皆様に視覚障がいに関する理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。